

1 源泉名	対島温泉 対島22号	
2 温泉の泉質	カルシウム・ナトリウム—硫酸塩・塩化物温泉 (低張性・弱アルカリ性・高温泉)	
3 源泉の湿度	59.6℃	
4 温泉を公共の浴用又は飲用に供する場所における温泉の温度	49℃	
5 温泉の成分 (pH)	mg/kg	
陽イオン	Li+	432.3
	Na+	12.8
	K+	0.2
	Mg ²⁺	516.2
	Ca ²⁺	
	Sr ²⁺	
	Mn ²⁺	
	Fe ²⁺	
陰イオン	F-	
	Cl-	806.7
	Br-	0.1
	I-	0.1
	SO ₄ ⁻	1108
	HCO ₃ ⁻	9.6
	CO ₃ ⁻	5.5
非解離成分	H ₂ SiO ₃	52.2
	HBO ₂	20.9
	HAsO ₂	0.6
溶存ガス成分	CO ₂	
その他成分	OH-	0.034
	Al ⁺⁺⁺	<0.02
	Mn ⁺⁺	<0.01
	Fe ⁺⁺	<0.05
	Fe ⁺⁺⁺	<0.05
	Cu ⁺⁺	<0.01
	S ₂ O ₃ ⁻	<0.1
	T-H ₂ S	<0.1
	T-P	<0.03
6 温泉成分の分析年月日	平成23年3月19日	
7 登録分析機関の名称及び登録番号	名称—(財)静岡県生活科学検査センター 登録番号—静岡県第1号	

8 浴用又は飲用の禁忌症

急性疾患(特に熱のある場合)、活動性結核、悪性腫瘍、重い心臓病、心臓病(但し高温浴(おおむね42℃以上)の場合)、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、高度な動脈硬化症(ただし高温浴の場合)、高血圧症(ただし高温浴の場合)、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中(特に初期と末期)

9 浴用又は飲用の方法及び注意

- (1) 温泉療法については、おんせんについて専門的知識を有する医師の指導を受けることが望ましい。
※温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を1日当り1回程度とし、その後は2回ないし3回までとすること。
※温泉療養のための必要期間は、おおむね2ないし3週間とし、湯あたりが現れたら、症状が回復するまで、入浴回数を減じ、または入浴を中止すること。
- (2) 入浴時間は、入浴温度によって異なるが、始めは3分ないし10分程度とし、慣れるに従って延長してもよい。
- (3) 入浴中は、一般には安静を守り、入浴後は、湯冷めに注意して一定の時間の安静を守る。
- (4) 入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さない。(湯ただれを起こしやすい人は、真水で身体を洗うか、温泉成分を拭き取るのがよい。)
- (5) 熱い温泉に急に入るとめまい等を起こすことがあるので、身体にかけ湯をしてから入浴するなど、十分注意をする。
- (6) 食事直前・直後の入浴は避けることが望ましい。
- (7) 飲酒しての入浴は特に注意する。